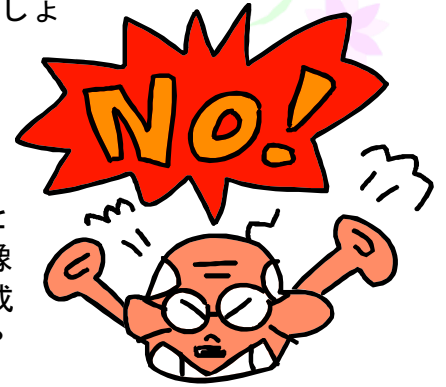


相談室だより(みさき)2013年12月

みさき病院 連携室 山下佐和子

秘密はヒミツ!?

特定秘密保護法案が強行採決されました。何を焦っているのでしょうか?! こんな大事な場面で、今年の流行語大賞の「今でしょ!」は使わなくていい! このまま「知る権利」「表現の自由」は国によって無理やり抑え込まれてしまうのでは…。何もかもが秘密になり、情報が与えられなくなると世の中にはデマが流布し、人々は混乱に陥るのでは…。また、監視社会になり言いたいことも言えず、そのうちお互いがお互いを監視するようになり、想像力を奪われ、恐怖や過剰な危機管理意識を持ち、常に周りを警戒し、ギスギスした世の中になってしまわないでしょうか? ただひと言、国民の声を聴いて下さいと言いたいです。



水俣病は終わっていない!

先日、水俣病についての講演を聞く機会がありましたので、感想と併せて報告させていただきます。水俣病は1956年に水俣市月浦市に住む少女の歩行時のフラツキや言語障害などの異変から始まり、近隣の住民にも同様の症状が発生しました。1969年に訴訟が始まり、闘いは長期化していますが、被害者がいる限り闘いは続きます。既に亡くなった方も多数おり、水俣病であることを証明する基準は極めて高いハードルでした。政府の厳しい認定基準(水俣病発生当時に住んでいた地域や年齢での線引き等)により救済を受けられない人が多数存在しています。「救うための基準」ではなく「落とすための基準」のようです。認定基準による振るい分けは、地域に差別や対立を生み、深い傷を残しました。被害者切捨てでの不当な線引きをやめ、すべての被害者を救済するには健康調査が必要になります。自分が水俣病であると感じかずに取り残されている潜在被害者もいます。民医連は2009年から3回の大検診に取り組み、対象地域外でも検診を行うことに貢献しています。全国の民医連スタッフが参加したことで、水俣病検診は被害の広がりを明らかにしています。勝手な切り捨てを許さないためにも重要な意味があります。最後の一人が救済されるまで闘いは続く、その支援に民医連が携わっていることが嬉しかったです。同時に、民医連の職員として何もしていない、何も知らない(無関心)でいた自分を恥ずかしく思いました。



行政による指定地域の線引きにどれだけの科学的根拠があるのかなど疑問はありますが、周辺の全住民を対象とした健康調査が、水俣病問題を改めて考える契機になると思います。57年も前の出来事ですが過去のことではありません。今も続いているこの公害を知ること、伝えることが偏見や差別をなくす一歩になり、救済につながっていくのではないのでしょうか。

2013年、ありがとう。

今年も残すところあとわずかとなりました! 年末はクリスマスから大晦日へとあれよあれよと過ぎていきますね。厳しい寒さではありますが、皆さまが元気に年越しできますようお祈り申し上げます m(_ _)m

